

令和8年度 第1回川崎市市民健康づくり運動推進懇談会 摘録

1 日時

令和8年7月28日（火）13時30分～15時00分

2 場所

川崎市役所本庁舎303会議室

3 出欠（◎印：オンライン参加）

（1）出席委員

岡野 敏明 委員◎	高柴 重幸 委員	伊藤 啓 委員	堀田 彰恵 委員◎
北村 恵子 委員	須賀 万智 委員◎	常住 良輔 委員	小川 町子 委員
村山 和枝 委員	清水 豊 委員		

（2）欠席委員

白井 基雄 委員 長沼 由紀子 委員

（3）事務局出席

健康福祉局長	鹿島 智
健康福祉局保健医療政策部 担当部長〔保健政策・保健所長〕	林 露子
川崎市立看護大学 准教授	佐藤 美樹
市民文化局市民スポーツ室 担当係長	藤原 和也
こども未来局児童家庭支援・虐待対策室 担当課長〔母子保健〕	村山 智子
教育委員会事務局学校教育部健康教育課 指導主事	安田 幸
健康福祉局保健医療政策部 担当課長	阪田 敬子
健康福祉局保健医療政策部健康増進課長	國米 佑宇
健康福祉局保健医療政策部健康増進課 担当課長〔歯科保健政策〕	大城 暁子
健康福祉局保健医療政策部健康増進課 担当係長〔健康事業〕	高野 静
健康福祉局保健医療政策部健康増進課 担当係長〔健康づくり〕	大原 純
健康福祉局保健医療政策部健康増進課	加藤 里香
健康福祉局保健医療政策部健康増進課	谷 草太
健康福祉局保健医療政策部健康増進課	前田 恵里
健康福祉局保健医療政策部健康増進課	高岸 悠太郎

（4）事務局欠席

なし

4 議事

- (1) 「かわさき健康づくり・食育プラン」の概要と今後の方向性について（報告事項）
- (2) 働き盛り世代における健康づくり活動の推進について
- (3) 「かわさき健康づくり・食育プラン」の今年度の取組について

5 公開又は非公開の別

公開

6 傍聴人の数

0人

7 配布資料

資料1	川崎市市民健康づくり運動推進懇談会運営要綱
資料2	川崎市健康づくり関連会議体系図
資料3	かわさき健康づくり・食育プラン概要
資料4	かわさき健康づくり・食育プランの取組スケジュール
資料5-1	働き盛り世代における健康づくりの取組状況
資料5-2	各団体における健康づくりの取組と健康増進計画の基本施策
資料5-3	川崎市健康増進計画の評価指標に対する取組について
資料6	「かわさき健康づくり・食育プラン」令和8年度の取組について
参考資料1	かわさき健康づくり・食育プラン 概要版
参考資料2	健康福祉局チラシとリーフレット一覧
参考資料3	デジタルサイネージ一覧
参考資料4	健康づくりステッカー
参考資料5	アルコールサイネージ
参考資料6	令和7年度川崎市健康増進計画推進に係る取組結果のまとめ

8 川崎市市民健康づくり運動推進懇談会について【資料1、資料2】

（事務局）資料1に基づき本会議の位置づけ、資料2に基づき健康づくり関連会議の体系について説明。

9 議事

- (1) 「かわさき健康づくり・食育プラン」の概要と今後の方向性について（報告事項）【資料3・4】

（事務局）資料3に基づき、計画の概要について説明。

資料4に基づき、計画のスケジュールについて説明。

【質疑応答】

特になし

(2) 働き盛り世代における健康づくり活動の推進について【資料5-1・5-2・5-3】

○資料5-1について

(事務局) 議事について、事前に各団体にアンケートの御提出をいただいている。

記載内容について、各団体より順に御発言をお願いします。

(岡野委員) 医師会では、特定健診やがん検診などの健診事業に積極的に参画している。また、腎臓病患者を対象とした透析予防や食事指導に関する講演会、講習会、料理教室等を実施している。

また、川崎市医師会健康づくりセンターでは、健康体操やヨガなどの各種教室を定期開催するとともに、介護予防に関する講習会・研修会を継続的に実施している。

さらに、乳幼児健診の担い手となる医療機関を対象としたアンケートや研修・講習を実施しているほか、麻疹等の感染症について、各種ツールを活用しながら適時適切な情報発信と周知啓発に取り組んでいる。

(高柴委員) 歯科医師会では、乳幼児から高校まで切れ目のない歯科健診を実施しているが、高校卒業後から40歳まで健診機会が少ないことが課題である。そのため、啓発活動の一環として、川崎市では妊婦及びパートナーを対象とした歯科健診を実施している。

また、歯周疾患検診は今年度から「歯周病検診」に名称変更し、40歳、50歳、60歳、70歳を対象に10年ごとに実施している。

さらに、工場が多い地域特性を踏まえ、酸蝕症対策として労働基準監督署等と連携した歯科特殊健診に力を入れているほか、オーラルフレイルの予防と普及啓発にも取り組んでいる。

このほか、口腔がん検診を年1回実施しており、歯周病等への関心の高まりから受診希望者も多いことから、今後さらなる充実を図っていく考えである。

(伊藤委員) 薬剤師会では、区民祭などの地域イベントに参加するとともに、「くすりと健康フェア」を年2回開催し、骨量測定、血管年齢測定、認知機能測定など各種健康測定を実施している。毎回多くの参加者が訪れ、健康づくりへの関心の高さがうかがえる。

また、薬物乱用防止に向けて、政令指定都市合同による街頭キャンペーンを実施しているほか、学校薬剤師が学校において薬物乱用防止教室を開催し、医薬品の適正使用と乱用防止の啓発に取り組んでいる。

さらに、市民公開講座を毎年開催しており、昨年度は「リンパケア実践セミナー」を実施し、多くの参加者を集めるなど好評であったことから、今年度も継続して実施する予定である。

このほか、健康増進アプリ「かわさきTEKTEK」の活用を会員に呼びかけるなど、日常的な健康管理の推進にも取り組んでいる。

(堀田委員) 看護協会では、毎年5月の看護週間にあわせて「看護フェスタinかわさき」を開催し、健康づくりに関する普及啓発を行っている。会場では健康づくりに関する資料を配布するとともに、「かわさきTEKTEK」のPRを実施している。また、健康増進課によるブース出展や血管年齢測定等も好評であり、今後も連携を継続していきたいとの意向が示された。

また、災害時の健康管理に関する啓発にも取り組んでおり、水が使用できない状況での手指衛生の確保や災害関連死の予防などについて、区ごとの災害時看護支援ボランティアナースが中心となって地域住民への周知活動を実施している。

(北村委員) 栄養士会では、川崎市や地域で開催される各種イベントに参加し、栄養や食事に関する健康相談を実施するとともに、食生活や栄養について改めて考える機会を提供するなど、普及啓発活動に取り組んでいる。

また、歯科医師会主催の「お口の健康フェア」では、骨粗鬆症や栄養に関する相談に対応するなど、生活習慣病予防や健康増進に関する支援を行っている。

さらに、高津区の「健康福祉まつり」では、健康相談に加え骨密度測定を実施し、フレイル予防にも取り組んでいる。

今後も、「お口の健康フェア」や「福祉まつり」、川崎市総合防災訓練等への参加を通じて、食事や栄養に関する知識の普及と市民の健康づくり支援をさらに推進していく考えである。

(常住委員) 川崎市PTA協議会では、7月1日の市制記念日に、よみうりランドにおいて「かわさきTEKTEK」の普及啓発活動を実施した。その中で、子どもたちから学校に必要なものや希望するものについて意見を聞くなど、今後の活動に生かすための取組を行った。

また、健康関連団体の活動への協賛を通じて、地域の健康づくりを支援している。

さらに、子どもの健康づくりには保護者自身の健康が重要との考えのもと、地域とのつながりを大切にしながら、保護者の健康増進を通じて子どもの健やかな成長につなげる取組を進めていきたいとの意向が示された。今後も関係団体と連携しながら活動を展開していく考えである。

(小川委員) 食生活改善推進員連絡協議会では、子どもから高齢者までを対象に料理講習会を実施している。子どもには減塩や野菜摂取の重要性、働き世代には生活習慣の見直しや適正体重の維持、高齢者にはフレイル予防をテーマとして、講話と調理実習を通じて健康的な食生活の普及に取り組んでいる。

また、各区で年2回実施する食育キャンペーンでは、野菜を活用したレシピの配布などを行い、食生活改善に向けた啓発を実施している。

各種イベントにも参加しており、「お口の健康フェア」では、バランスチェックシートを用いて1日10品目の摂取を呼びかけるなど、栄養バランスの重要性について丁寧な説明を行っている。

さらに、若者世代や働き世代を対象として、6か所で実施し、看護大学の学園祭ではみそ汁の試飲、野菜350グラムの計量体験、食生活に関する講座を実施し、バランスの取れた食事の大切さを啓発している。

このほか、災害時に役立つポリ袋調理への関心が高まっていることから、各地域でポリ袋を活用した料理講習会を開催し、災害時の食の備えに関する普及活動にも取り組んでいる。

(村山委員) 健康づくりサポーターは、市の養成講座を受講した後、高齢者を中心に体操を通じた健康づくり活動を実施している。活動場所の確保が課題であるものの、多くのサポーターがいこいの家など地域の拠点を活用しながら活動を展開している。

また、市からの依頼を受け、ソフトボール大会やバレーボール大会などの開会式において参加者向けの体操指導を行っているほか、障害者や子どもを対象としたイベント、水族館での健康関連イベントなどにも参加し、体操を通じた健康づくりを推進している。

一方で、サポーターの高齢化に伴う担い手不足が課題となっているが、新たな養成講座の実施により後継者の育成が進み、イベントで活動できる新規サポーターも育ってきている。

さらに、今後整備される大師地区のコミュニティ拠点について、誰もが気軽に集まり体操や健康づくり活動に参加できる場となるよう、利用者の立場から意見を提案していきたい。

(清水委員) 川崎北地域産業保健センターでは労働安全衛生法に基づき、主に50人未満の事業所を対象として産業保健支援を実施している。健康診断結果について、業務遂行上の支障の有無や健康上の問題点等を確認し、川崎市医師会所属の産業医資格を有する医師が判定や助言を行っている。

対象区域は中原区、高津区、宮前区、多摩区及び麻生区の5区であり、川崎区及び幸区については川崎南地域産業保健センターが担当している。

また、事業所の業種別・地区別の状況に関するデータを集計・分析しているほか、近年は健康診断結果に関する意見聴取の依頼も増加しており、地域事業所の健康管理支援に継続的に取り組んでいるとの報告があった。

【質疑応答】

(堀田委員) 来週、キングスカイフロントで開催される夏の科学イベントにおいて、看護協会が子ども向けの「看護師体験」を実施する。看護師によるバイタルチェックの方法や、そこから身体の状態を判断する過程を学ぶ機会を設け、子どもたちが健康や身体に関心を持ち、セルフケア意識を育むことを目的としている。

今後は、本取組をプログラム化し、市内各地や小学校等で実施できるよう展開を進める。また、PTA協議会等とも連携しながら、看護師の知識や経験を子どもたちに伝える機会の拡充を図っていきたい。

(事務局) もし資料等があれば、事務局から配布も可能。

(事務局) 伊藤委員に伺いたい。昨年度、先ほどお話のあったリンパケア実践セミナー、好評だったとのことだが、対象はどのような方か。また、具体的な内容を御教示いただきたい。

(伊藤委員) 市民公開講座として川崎市民を対象に実施した。講師はリンパケアを専門とする木村氏であり、市外から参加者が訪れるほど人気が高い講座であった。

講座では、リンパケアや筋膜ストレッチについて、講師が実演を交えながら解説し、参加者も実際に身体を動かして複数のストレッチを体験した。講義を聴くだけでなく実践を取り入れた内容であり、参加者の反応も良く、盛況であった。

このため、今年度も同講師を招いて実施する予定である。

(事務局) チラシをいただければ事務局からも展開できる。

○資料5-2、5-3について

(事務局) 資料5-2に基づき、各団体において力を入れていただきたい項目について説明。

資料5-3に基づき、各指標達成に向けた取組について説明。

【質疑応答】

(事務局) 岡野委員に伺いたい。19ページの健康スポーツ医に関する取組について、もし現時点で今後の展開としてお考えのことがあれば、お聞かせいただきたい。

(岡野委員) 川崎市医師会には健康スポーツ医部会があり、整形外科医に限らず、循環器内科医などスポーツや運動に関心を持つ医師が所属している。これまでは駅伝大会やマラソン大会、各区の体力測定事業などに協力してきたが、現在は主にマラソン大会の救護活動への協力が中心となっており、活動機会は減少している。

そのため、今後は地域のニーズを踏まえながら、老人会などに対して積極的に働きかけを行い、健康づくりや運動に関する活動への参画機会を広げていくことを検討している。一方で、医師のマンパワーは減少傾向にあり、活動の在り方については過渡期にある。

また、健康づくりセンターなどで配布していた紙媒体の広報紙については、DXの推進や紙媒体の需要減少、配布効果などを踏まえ、廃止に向けた整理を進めている。医師会の広報活動についても見直しの時期を迎えている。

(伊藤委員) 事務局に伺いたい。オーバードーズについては、本会議でも継続して取り上げているが、依然として改善が見られない状況であり、対策の強化が必要と考えている。オーバードーズに関するデジタルサイネージ等の作成を依頼することは可能か。

(事務局) 本日、関連部署はいないが、今後、貴会とも相談しながら調整したい。

(堀田委員) 伊藤委員に伺いたい。伊藤委員がオーバードーズで危機感をお持ちなのはやはり若者か。

(伊藤委員) オーバードーズについては、本会議でも継続して取り上げている課題であるが、依然として深刻な状況が続いている。子どもたちを守りたいとの思いは強いものの、実際には 50 代を含む幅広い年代で発生している。

薬剤師会としては、多重受診により複数の医療機関から医薬品を入手する事例を把握しているほか、入手した医薬品が第三者へ販売される事例も報道されている。

実態の全容把握は難しいが、子どもだけでなく成人も含め、医薬品の適正使用の重要性について継続して啓発していく必要がある。

(堀田委員) オーバードーズの問題については毎回指摘があり、その重要性に強く共感している。本件は複数部署にまたがる課題と思う。虐待など困難な家庭環境を背景としてオーバードーズに至る子どももいると考えられることから、関係部署が連携し、全市的な課題として取り組むことが重要である。毎年継続して提起されている問題であることの重みを関係者間で共有し、取組を進めていく必要がある。

(事務局) こども未来局としても、子どものオーバードーズが頻発している現状を重く受け止めている。

インターネット販売などにより医薬品が容易に入手できる状況も踏まえ、オーバードーズの問題を正面から受け止めたい。

(事務局) 堀田委員に伺いたい。24 ページ、プレパパ・プレママ教室妊婦相談での啓発につきまして、具体的な内容、どのようなことをやっているかをお聞かせいただきたい。

(堀田委員) プレパパ・プレママ向け講座や相談の機会を通じて、妊婦が健康に過ごすための普及啓発を行っている。講座では、喫煙、飲酒、運動など妊娠期の健康管理について説明しており、どの助産師が担当しても同様の内容を伝えられるよう資料を整備している。

また、赤ちゃんが健やかに育つための環境づくりや、乳幼児期からの健康の重要性についても講義に取り入れている。

さらに、講座開始前や休憩時間には、スライドショーを活用して受講者に健康づくりに関する情報提供を行い、普及啓発に取り組んでいる。

(3) 「かわさき健康づくり・食育プラン」の今年度の取組について【資料6】

(事務局) 資料6に基づき令和8年度実施予定の取組を説明。

【質疑応答】

(清水委員) 事務局に伺いたい。外国人労働者、特に東南アジア系の従業員が増加している中、日本語での情報伝達が十分に行き届いているのか懸念がある。健康診断結果に基づく受診勧奨や健康管理に関する助言についても、実際に本人へ適切に伝わっているかが課題である。川崎市における外国人住民への健康情報の提供や支援について、言語面を含めた具体的な取組があれば伺いたい。

(事務局) 市としても多言語対応の必要性は認識しているものの、現時点では全ての事業や資料に対応できている状況ではない。健康分野では熱中症予防に関する啓発資料の一部で多言語化を実施しており、防災分野でも多言語対応を進めている。一方で、日常的な健康づくりに関する普及啓発については十分な対応に至っておらず、外国人住民向けの情報発信は今後の課題である。外国人住民への健康情報提供の必要性について意見を受け止め、対応策を検討していく。

4 その他

(事務局) 次回は3月下旬頃を予定している。開催が近づいたらまた日程調整をさせていただきたい。

以上